

## 総合周産期母子医療センター（小児科部門）

### < 新生児集中治療部 >

#### 1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長（准教授）	河野 由美（兼任）
病棟医長（講師）	矢田ゆかり
医員（講師）	小池 泰敬
	（病院助教） 俣野 美雪
	（病院助教） 鈴木 由芽
	（病院助教） 下澤 弘憲
	（病院助教） 谷口 周平
	（レジデント） 渡邊 知佳

他、小児科と兼務

#### 2. 新生児集中治療部の特徴

栃木県の総合周産期センター二施設のひとつとして、栃木県で出生するハイリスク新生児のほとんどを二分する形で診療している。地方の中核病院であり、入院するハイリスク新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。勤務するスタッフは全員、診療科としては小児科に属しており、兼務である。

#### 認定施設

日本周産期・新生児医学会認定研修施設

#### 認定医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医  
矢田ゆかり、小池 泰敬

#### 3. 実績・クリニカルインディケーター

##### 1) 入院患者数

391人（再入院8人除く）

院内出生345名（母体外来観察例66名、母体搬送32名、母体外来紹介247名）、院外出生46名（病院等からの搬送44名、自宅出生等2名）

##### 2) 人工呼吸器管理数・率

129/391例、33%

##### 3) 生存率・死亡数等

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	0	1	0.0
23	1	1	0	100.0
24	4	3	1	75.0
25	4	4	0	100.0
26	5	5	0	100.0
27	2	2	0	100.0
28	3	2	1	66.7

29	3	3	0	100.0
30	7	7	0	100.0
31	6	6	0	100.0
32	17	17	0	100.0
33	20	20	0	100.0
34	33	33	0	100.0
35	27	27	0	100.0
36	26	26	0	100.0
37以上	232	228	4	98.3
計	391	384	7	98.2

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
< 500	1	1	0	100.0
< 750	9	7	2	77.8
< 1,000	9	9	0	100.0
< 1,250	8	7	1	87.5
< 1,500	18	17	1	94.4
< 1,750	17	17	0	100.0
< 2,000	40	39	1	97.5
< 2,500	89	89	0	100.0
> 2,500	200	198	2	99.0
計	391	384	7	98.2

#### 4) 年間死亡症例 7例 内訳

週数	体重	病名
22	527	敗血症 NEC 穿孔 DIC RDS (IV)
37	1446	18トリソミー ECD (完全型)
37	2968	到着時心停止
28	1218	RDS (IV) 気胸、肺出血 腎不全、シトリン欠損症 (疑)
24	544	肺低形成 頭皮裂傷 敗血症
41	1864	18トリソミー CoA VSD PDA
40	3365	仮死 (重度) MAS 帽状腱膜下血腫 脳出血

#### 5) 先天性心疾患入院例

52例。その内、胎児診断12例、PICU転科・手術17例、NICU内死亡1例（18トリソミー）。

#### 6) 多胎入院数

多胎71例

#### 7) 外科症例

手術例30例、光凝固術6例

#### 8) 逆搬送

18例。

#### 4. 事業計画・来年の目標

周産期医療をめぐる状況は毎年、目まぐるしく変わっている。栃木県出生の新生児の他県への搬送は非常に少

ないが、県内の産科施設の状況も不安定であり、このまま、県内出生全例の県内収容が継続できるか不透明である。今後も、県内総合周産期センターである獨協医大、地域周産期センターと協力し、連携を図って、困難な状況を乗り越えていきたい。自治医大NICU内には、周産期連携センターとしての役割もあり、来年もこれらの責任を果たしていきたい。

医療面での新たな取り組みとしては、昨年導入した機器を用いた低体温療法実施の準備が整った。

09年度に自治医大周産期センターは周産期医療に携わる人材育成および地域の周産期医療レベルの向上のために、文科省から補助金を受け、「周産期医療教育・支援部（JPEC）」創設による種々の事業を開始した。13年度にも、このJPECと共同して、新生児蘇生法講習会、周産期新生児研修会を開催し、周産期医療の人材養成と同時に栃木県の周産期教育も継続して行っていく。

また、県から栃木県周産期医療研修会のための補助金を受けており、新生児蘇生法講習会Bコースの開催も継続して行う予定である。

## < 新生児発達部 >

### 1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

部長（准教授） 河野 由美

### 2. 新生児発達部の特徴

新生児発達部はNICUからの円滑な退院と在宅医療への移行のため、NICUと連携して新生児外来を担当している。主な対象は当院および地域関連病院のNICU退院児で、診療内容は成長・発達の健診とともに合併症の治療・精査、必要な養育支援である。

主な対象は、①早産低出生体重児、②合併症のあるNICU退院児、③新生児難聴スクリーニングの精査・フォロー、④シナジス外来（冬季に、RSV重症化予防のためのパリビズマブ接種）である。出生体重1500g未満の児は全国の共通プロトコールに従って、心理、リハビリテーション部門とともに小学校入学後までフォローアップしている。

### 3. 実績・クリニカルインディケータ

昨年度の診療実績は、新生児外来年間受診者数2194名、シナジス外来年間受診者数 210名であった。